



あした

明日もしあわせ通信 (第69号) 令和4年3月号

過ぎたるは猶及ばざるが如し

『過ぎたるは猶(なお)及ばざるが如し』(出典：論語・先進篇)とは、「何事も程々が肝心で、やり過ぎることはやり足りないことと同じように良いこととは言えない」という意味ですが、このことわざを見て私が連想したのは、2021年にその活躍が最も話題になった、MLBで二刀流の大谷翔平選手でした。

過去3年間はケガに泣いてきた大谷選手でしたが、2021年に年間を通じて投打に大活躍できた大きな要因の一つが、練習量を大幅に減らしたことだと言われています。もともと大谷選手は練習好きで知られ、以前には「だいたい1日6時間から7時間はトレーニングしている。」とコメントしたこともありました。また、コーチからも「普通の選手の2倍の練習量で、誰とも比べられないほど熱心に取り組んでいる。」と言われていました。

2021年の開幕前にマドン監督からも『練習のし過ぎ』を指摘され、大谷本人も含めた話

し合いの中で、『二刀流としてフルシーズンを戦いながら、故障を防ぎ完走する。』そのためにはどうすればよいかを検討した結果、調整法を一つ大きく変えました。それは、練習をしないという決断でした。MLBは、長距離を移動しながら162試合を戦う過酷な長丁場であり、鍵を握ったのが疲労をためないというマネジメントだったのです。

大谷選手は、MVPを獲得した後の会見で「トレーニングをもっとハードなものにしたい。まだまだ上に行けると思っている。」と述べて、飽くなき向上心を示しました。



まもなく開幕する2022年もケガなく、シーズンを通じて活躍してくれることを期待しながら、「ことわざシリーズ⑤」でした。(E・F)



適応指導教室「はばたき」から ～個に合わせた学習をめざして～

最近、書くことが苦手なことで学習する事への意欲をなくしている子どもがいます。反対に、書くことは苦手だがタブレットなどの教育機器の扱いは得意で、タブレットを使った学習で学習意欲を向上させている子もいます。

タブレットを使って学年の教材を行うと、自分でタブレットに触りどんどん調べたり学習を進めたりしています。

特に、書くことが負担な子は、書く活動があるだけで「勉強のすべてが嫌い。」と答えます。しかし、そんな子どもも、タブレットを使って自分の速さで学習を進めていくのが楽しいようです。

もちろん読み書きは学習の基本で大切ですが、まずは勉強することの面白さを味わわせるためにも、セキュリティの決まりをしっかりと守らせながら、教育機器の使い方に慣れ、自分に合った学び方ができるようになればと思っています。



(漢字や方程式に挑戦)

春 よ 来 い

コロナワクチン初回予約、電話がなかなか繋がらなかった昨年5月のこと。Web で予約するしかない・・・とスマホ片手に焦っていた時、保健師さんが親切に操作の仕方を手伝ってくださった。

接種の日、杖をついて歩く母の姿を見つけて、すぐに駆け寄って車椅子を用意してくれたのは、伊予消防救急救命士のSさんだった。日曜日の朝、お仕事が休みにも関わらず、自主的に接種会場で待機していたとのこと。住民の不安に寄り添ってくれたことは、本当に心強かった。

さらに驚いたのは、問診の場で偶然私の主治医の先生に出会った時のことだ。私が「平日の診療の上、休日返上でお疲れでしょう。」と心配を伝えた時、先生は疲れを見せず「伊予市はワンチームで頑張ります！」と爽やかに答えてくださった。保健センターで出会ったスタッフの方々は頼もしく温かかった。

安心は人が与えてくれるものだということを実感した一日になった。笑顔の声掛けのお陰で無事に接種を終えたあの日から8か月。ワクチン追加接種（3回目）の予約案内が届いた。3回目は予約も接種も落ち着いてできそうだ。

伊予市が「街の幸福度ランキング全国2位」に選ばれた理由は、きめ細やかな見守りや心の繋がりがあがる「人の優しさ」にあるのかもしれない。その優しさを力に変えて、あと少し、感染予防を心掛け、実行していきたいと思う。

コロナウイルスの感染が終息した、当たり前の日常に早く戻ってほしい。うらかな「春よ来い」と待ち遠しく思う毎日です。(K)



《センター長のつばやき》

遠い冬の思い出

40年以上も前の話。松山の中学校を離れ、久万の実家から通える明神小学校に赴任した。冬になると30cm以上の積雪が日常的だった。段ボールやビニールをいっぱい用意し5年生15人に「今日は外で体育の授業をするぞ」（ソリ遊び）と言うと、皆大喜びだった。すぐ隣のゴルフ場に連絡をすると、コースの一部をお借りすることができた。100mを越える坂のコースである。楽しみに決まっている。

今のような防寒着があるわけではないが、頭から湯気がでるほど滑った。給食を食べに学校へ。ストーブの周りに服が散らばる。

午後からも行く気満々である。15時まで滑り、みな満足な顔をして終わりの会に臨んだ。

プールに張った氷の上で授業をしたこと。学芸会で「浦島太郎」を演じ大喝采を受けたこと。体育館で寝そべて最後の記念撮影をしたことなど、楽しい思い出が蘇る。なぜか50歳を過ぎた15人とは音信不通である。

あの頃の子どもたちに逢いたいな。(DOIG)



《発達支援巡回相談》

巡回の喜び

「先生、A君、朝のお支度ができるようになったんです。」

ずっと、心配していた担任の先生が、一番に話してくれました。先生のおとした工夫でご飯をよく食べるようになったとも笑顔で話してくれました。

先生の笑顔を見て、よかったと一緒に嬉しい気持ちでいっぱいになりました。

子どもと毎日関わるのは園の先生方です。手探りで子どもに合わせた関わりを工夫してくれています。上手くいく時もそうでない時もありますが、毎日たゆまず関わってくれています。それは、コロナ禍でも同じです。

年度の終わるこの時期、子どもたちの様子を見ながら成長したとしみじみ感じられる時、先生方のご苦労が実ったと幸せな気持ちになれるのです。(A)

伊予市子ども総合センター

伊予市尾崎3-1

総合保健福祉センター2階

(電話) 089-989-6226

